

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇新生、塩化ビニル管・継手協会の設立

## ■随想

◇エスワティニ王国旅行記（6）自然

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■トピックス

## ◇新生、塩化ビニル管・継手協会の設立

2022年5月23日付で、塩化ビニル管・継手協会（旧）、プラスチック・マスマンホール協会（旧）、プラスチックリブパイプ協会（旧）及びC.C.BOX<sup>※1</sup>管路システム研究会（旧）の4団体が統合し、新たな組織「[塩化ビニル管・継手協会](#)」がスタートしました。鈴木謙次郎専務理事に新体制、今後の取り組み課題や方針についてお話を伺いました。

新体制の正会員会社は10社<sup>※2</sup>、今回の統合を機に一元化することで業務の効率化、関係機関との連携も一層密にして、地震や集中豪雨など自然災害への対応、CO<sub>2</sub>排出抑制など環境負荷低減、マテリアル・リサイクルの推進、無電柱化の推進、といった様々な社会課題の解決という視点をこれまで以上に重視しつつ、所管製品の普及・広報事業、環境・リサイクル及び技術調査事業等に取り組むとこととしています。

※1) C.C.BOX：電線共同溝（Community, Communication, Compact Cable Box）。名前の由来は電カケーブルや光ファイバーケーブル等を地下管路に收容すること。無電柱化の手法の一つ。

※2) (正会員会社) 旭有機材(株)、アロン化成(株)、(株)ヴァンテック、(株)クボタケミックス、信越ポリマー(株)、積水化学工業(株)、タキロンシーアイ(株)、東栄管機(株)、日本プラスチック工業(株)、前澤化成工業(株) (50音順)

## 1. 社会課題解決に資する製品の普及・広報

## 1) 安心・安全な水道・下水道整備への貢献

水道分野については、経済性ととも、地震等災害時の耐震性、損傷の際にも資材調達・施工が容易であること等の特性を理解していただきつつ、配水支管としての耐震性（レベル1）を有しているRR管<sup>※3</sup>、配水本管としての耐震性（レベル2）を有し、耐震適合管であるRRロング管<sup>※3</sup>を中心に普及活動を展開する。

下水道分野では、これまで小口径塩ビ管は経済性から相当程度普及が進んでいるが、中・大口径分野についても改めて長期利用にも耐えうることを検証し、ライフサイクルコストの優位性をアピールしつつ、その新設・更新需要に応えていく。

※3) RR 管 : ゴム輪受口部をもった水道用塩ビ管

RR ロング管 : RR 管より長いゴム受口部をもった塩ビ管

## 2) 雨水浸水対策、地下水資源保全への貢献

昨今多発しているゲリラ豪雨等による水害や都市化の進展に伴う雨水流出抑制対策として、また地下水資源保全の観点から、プラスチック製雨水浸透ますの普及に努めていく。かかる課題を抱える河川流域の自治体からの支援を得つつ利用促進に努める。

## 3) 無電柱化推進への貢献

災害対策、交通安全対策及び景観保全という観点から、今後全国各地で無電柱化が大きく進展することが見込まれる中、塩ビ製電力・通信用ケーブル保護管の普及・広報に注力していく。ケーブル地中化分野では、電力・通信の両分野で多くの実績があるが、電力保護管においては、従来品の CCVP 管<sup>※4)</sup>と比較して、同様の性能を有しつつ、より低コスト化を追求した ECVP 管<sup>※5)</sup>によって安全安心なライフラインの提供に貢献する。

※4) 電力ケーブル用耐熱耐衝撃性塩化ビニル管(Community, Communication, Compact Cable Vinyl Pipe)、通常電力線用はオレンジ塩ビ管

※5) 低コスト電力線用塩ビ管 (グレイ)

## 2. 環境に配慮した製品供給支援

### 1) 協会リサイクル推進事業

引き続き使用済塩ビ管・継手の受入からリサイクル管の製造・販売に至る一貫したリサイクルシステムの下、“pipe to pipe”リサイクル事業を推進していく。

会員会社では、リサイクル管 (RS-VU、RF-VP) を製造・販売しており、品質を高めるため三層構造にすることで品質の安定化を図っており、JIS 規格に制定されている。この他、リサイクル協力会社のうち2社が、リサイクル塩ビ管 (REP-VU) を製造・販売している。

なお、これら製品は、排水・通気用途の配管材として、グリーン購入法に基づく特定調達品目に指定されている。

### 2) 製品の環境影響評価

2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、今後製品・サービスの環境への配慮がより一層市場において高く評価されることが見込まれる。協会としても、塩ビ製品の原料の調達から製品の製造・消費、廃棄までのライフサイクル全体でのエネルギー消費、CO<sub>2</sub> 等温室効果ガス発生量等を見える化し、製品の環境性能を幅広く広報していく。

## 3. 技術課題

協会では、現在、国土交通省、地方自治体協力の下、使用開始以降 40 年以上経過した下水道塩ビ管の性能試験を全国各地で実施している。本調査を通じて塩ビ管の長寿命を検証し、ライフサイクルコストの低減に貢献する。

## ■ 随想

### ◇エスワティニ王国旅行記（6）自然

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

国土が乱開発される前、いち早く保護地域を設定し対応したエスワティニ王国にはいくつもの国立自然公園があります。

そこには多くの野生動物が生息していますが日本の国立公園のように誰でも気軽に入ることはできません。

ゲートで入場料（公園の維持、管理に使われます）を払い、指定したルートで車を走行したり、トレッキングをしたりすることになります。

その途中、野生動物が見られたらラッキー (^\_^)v

相手は野生動物ですから人間が来たと言って姿を見せてくれるわけではありません。



画面、左側、水の中にいるのがカバ（3頭います）。

右側、2頭いるのがサイです。

ほとんどの自然公園ではライオンや、サイ、カバなど人間を襲う可能性がある動物を見る場合は必ずガイドを雇うかツアーに参加しなければなりません。自然公園に

よっては入口で地図を渡されるだけで、自分で車を運転しサファリが楽しめるようになっています。

その際、「動物に襲われ、怪我や死亡をした場合でも、本人、またはその家族がその動物を射殺、薬殺するように申し出ることは致しません」という書類にサインを求められます。

地図にはこのエリアでは絶対に車から降りてはいけないなど細かい注意が書かれています。

道は舗装されておらず、サバンナの中を駆け抜けることになります。

普通の乗用車でも走れないことはないのですが悪路走行になれていないと走破できません。

私は小型車のレンタカーで走ってみましたが日本では一般的なオートマ車ではスタックをすると脱出できないと思います。

その点、マニュアル車なら変速ギアを固定し、力業で脱出できます。

また、自然公園内ではブッシュの中も駆け抜けることになるので木の枝や飛び跳ねた石などが車両にガンガン当たります。

自然公園から帰り車体を見ると擦り傷だらけ。

レンタカーでよかったなと思う反面、このまま返却すると問題になりそうなので洗車し、擦り傷を目立たなくするため研磨効果がある練り歯磨きで磨いておきました (^o^)

国立自然公園でなくても動物や鳥などは沢山生息しています。

私は街から離れ、山の中の農場に滞在していますが、こちらは、現在、午前6時前が日の出となります。

日の出時間前になると鳥が一斉に鳴き出し様々な鳥の声に包まれます。

この鳥の声だけで目覚まし時計は不要です。

昼間は野生のクジャクがそこら中を走り回り、オスはメスを見つけるとあの立派な



尾羽を扇子のように広げ、求愛しています。尾羽、広げているときはいいのですが、普段は小さな体に1メートル以上の長さの折り畳んだ尾羽を引きずって歩いているので邪魔にならないのかと思ってしまいます (^\_^;

ちょっと前を横切りますね

人を恐れることもなく目の前を平然と横切っていきます

雨が降るとカエルが鳴き出すとともに、そこら辺をピョコピョコ飛び跳ねています。と言うと可愛いのですが、このカエル、大きさは大人の頭ほど。

ピョコピョコというよりドスドスと言った方がいいかもしれません。

カエルも数種類おり、中には毒を持ったカエルもいます。

毒と言っても噛み付くわけではなく、目というか、耳の後ろに毒を出す腺があり、体の表面を毒で覆います。

このため、動物や鳥（人間を含む）がこのカエルを食べたり、触れたりすると、その毒にあたるということです。

人間の場合、触れただけならその部分が赤く腫れあがり炎症が起こるだけだそうです。が触れないに越したことはありません。

アフリカですから蚊やハエをはじめ昆虫も沢山います。

ただ、どれが人間にとって有害かそうでないかの区別が私には付かないので、滞在している部屋では殺虫剤成分であるピレスロイドを使用しています。

そうすると、一見、虫がいないように見えた部屋の中、天井裏や梁などからボトボトと虫が落ちてきます (>\_<)

結構、いろいろな場所に潜んでいるものですね。

初日の夜は、先ず、落ちてきた虫の死骸集めから始まりましたが、その後は虫もおらず快適です。

以前、別のアフリカの国に滞在したときは室内に本当に虫がいませんでした。

その部屋には大きなヤモリが住み着いていたので、バクッと食べてくれていたようです。

(続く)

次回は、(7) 南半球 です。

⇒ [バックナンバー](#)

#### ■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)